

平成30年度第1回道の駅あらお（仮称）基本構想策定委員会 議事録要旨

日 時：平成30年11月28日（水） 午前9時30分～午前12時00分
場 所：荒尾市役所 11号会議室
議 題：1. 荒尾市における道の駅について
2. 南新地土地区画整理事業の概要について
3. 委員会及び事業概要について
4. 先進事例紹介等について
出席者：波積真理委員長（熊本学園大学教授）、山代秀徳副委員長（荒尾市観光協会会長）、高橋伸佳氏（JTBヘルスツーリズム研究所所長）、高木洋一氏（荒尾商工会議所副会頭）西川幸一氏（荒尾漁業協同組合代表理事組合長）、前田和隆氏（熊本北部漁業協同組合副組合長）、迎五男氏（玉名農業協同組合荒尾支所担当理事）、小川孝志氏（荒尾飲食店組合組合長）、山中孝紀氏（荒尾飲食店組合理事）、吉村信明氏（荒尾酪農業協同組合代表理事組合長）、古城義郎（荒尾市農業委員会会長）、田頭スエカ（荒尾市食生活改善推進員協議会会長）、畑添美香（消費者代表）、久保明（独立行政法人都市再生機構九州支社都市再生部長）、宮崎隆生（荒尾市建設経済部長）
事務局：米田農林水産課長、田中産業振興課長、末永都市計画課長、田川政策企画課長、硯川農林水産課主幹、藤井農政係長、松本農林水産課副主任、株式会社マインドシェア

1. 開会

米田農林水産課長が開会を宣言し、資料の確認を行った。

2. 委嘱状の交付

米田農林水産課長から、各委員の紹介が行われた。

市長の代理として田上副市長から、委員を代表して波積委員に委嘱状が交付された。

各委員の委嘱状については、机上に配布している旨が報告された。

3. 副市長あいさつ

市長の代理として、田上副市長から挨拶がなされた。

「道の駅あらお（仮称）」については、土地区画整理事業を進めている旧荒尾競馬場跡地、約34.5ヘクタールの区画を活用して、計画を構想しているところである。

取り組む目的としては、農漁業については、後継者不足の顕在化や農業・漁業に対する所得の向上をいかに図っていくかということで、農業・漁業振興の部分はかなり大きい。万田坑施設、荒尾干潟、グリーンランド、これらを回遊する観光ルートとして、交

流人口を増やすために、道の駅についても役割を果たしていけるのではないかと考えている。さらに、防災拠点としての役割、日々お買い物をされる方々の拠り所、こういった機能を私どもとしても期待しているところである。

委員の皆様方には、「道の駅あらお（仮称）」に想いを込めていただき、まず壮大なイメージを抱きながら、それをどう積み上げて具体化していくか、ご議論いただきたい。

市としても精一杯重きを置き、皆様方にいつまでも親しんでいただける道の駅整備に尽力していきたいと考えている。」

4. 委員長及び副委員長の選出及びあいさつ

道の駅あらお（仮称）基本構想等策定委員会条例第5条の規定により、委員長及び副委員長の選任は委員の互選により選任するとなっているが、立候補がなかったため、事務局により委員長を波積委員、副委員長を山代委員を提案した。意見等なく、承認された。

委員長に就任した波積委員長から挨拶がなされた。

「皆様の多様な立場から御意見等をいただき、先進的で各地から視察に来ていただける、そして活気のある、そのような道の駅になるとよいと考えている。

ラムサール条約に登録された荒尾干潟を臨む立地（南新地地区）に建設されるということであり、このような立地に道の駅が建設されるということはあまりない。景観を含めた自然の素晴らしさ、そのような強みを活かして非常にユニークな施設になると期待している。」

副委員長に就任した山代副委員長から挨拶がなされた。

「女性の委員長ということで、兼ねてより女性目線というお話を会議等で申し上げている。妻と旅行に行った際に、その行程にも様々な道の駅があり、妻から、ここの道の駅に寄りたいと、女性が好む道の駅に男性の私が引っ張られて、中に入っていくという状況がある。

県内では、最後になる道の駅になると考えられるが、是非、観光客、交流人口を増やすことはもちろんのこと、市民の方が集えるような、そして、土日祭日だけでなく、平日にもにぎわいのある道の駅にできたらよいと考えている。非常に景観の良い場所にできるということもあり、今後、有明海沿岸道路が延伸され、特にシーサイドということで、有明海の珍しい海産物もあるため、観光客には非常に喜ばれる。

2つの世界基準、万田坑、ラムサール条約湿地の荒尾干潟ということをして、グリーンランドを中心に観光開発を行っていききたい。道の駅が観光拠点・情報発信の基地となり、更に居住区域ができるということで、南新地の開発については先進的な未来都市を形成していただきたいと思っている。その中に道の駅があるということで、非常に構想は膨らむところである。」

5. 諮問

委員を代表して波積委員長、山代副委員長へ田上副市長から基本構想策定に関する諮問 ※諮問の後、田上副市長は公務都合により退席した。

6. 議事

(1) 荒尾市における道の駅について

事務局が、資料1に基づき荒尾市の産業・観光における現状と課題や道の駅の整備目的等を説明した。

(2) 南新地土地区画整理事業の概要について

事務局が、資料2に基づき南新地区画整理事業の概要等を説明した。

(主な意見)

○市民をどこまで巻き込めるかがポイント。

○一過性ではなく、健康価値を入れていくと、きっちりとした文脈やストーリーができる。地味ではあるが安心・安全を徹底的にやるのが重要な事であると考えている。

○商圈ベースは、荒尾市、玉名市、大牟田市というのが、コアなマーケットになる。ここに対してどういったことを発信するのもポイントになってくる。

○地元周辺エリアからは、共感や成長という側面で期待されている。ここが、九州エリアや全国で知られていくと大きなポテンシャルになるのではないかと考えている。

○「道の駅あらお」は、市の最上位計画である総合計画の一端であるということと、ウェルネスという健康活用をきっちり打ち出していくような在り方というのが、方向性として、各委員の共通認識として持っていただけるのではないかと考えている。

○ウェルネス拠点ということで、保健福祉子育て支援施設の新設とあるが、具体的なことは分かっているのか。

【事務局】

●機能をうまく一箇所に集約するなど、いろいろな可能性を検討している最中である。最終決定という段階においては、来年度予算計上させていただく予定の保健福祉子育て支援施設における基本構想等で検討していくと考えているため、議会等々での議論を踏まえて、方向性をお示しできるのではないかと考えている。

○どういう経緯で道の駅をつくるということに至ったのか。

【事務局】

●昨年度実施した基礎調査において、来場者の推計等により収支の概算を行った上で、それなりの収益が見込める可能性があるかと判断したため、今回の基本構想となった。今年度において、マーティング調査を更に詳しく実施し、来年度の収支計画につなげていきたいと考えている。

○これだけ大きな事業を行うわけであるため、絶対に間違いないという方向性を密に示しながら進めなければ大変なことになる。

○資料(2)のP4に納骨堂が記載されているが、このまま残るのか。

【事務局】

●このまま残ることになる。

(3) 委員会及び事業概要について

事務局が、資料3-1に基づき今後の委員会の内容やスケジュール等を説明した。

事務局が、資料3-2に基づき業務概要について説明した。

(主な意見)

○生産者等へのヒアリングやワークショップをする計画はあるか。

【事務局】

●生産者等への個別ヒアリングは来年度実施予定である。

○道の駅はソーシャルな施設でもあるので、経済原則以外の評価尺度もあるか。

【事務局】

●あまりにも経済のところだけが先走ると、必ずしも市民の方にとって居心地の良いスペースにはならない。インターの出口があり、周辺に様々な施設ができていくため、それを踏まえて道の駅エリアの開発にしていけないといけない。

【事務局】

●補足として、今現在、市内で約100名程度の農家から道の駅ができた際の出荷意向が示されている。金額にすると、概算で約1億円程度である。漁業関係については、各漁協と今後詰めていく。

○100名くらいというのは、だいたい全体のどれくらいに当たるか。

【事務局】

●自給的農家を含め、本市の農家数が約600名であるため、6分の1程度である。

○委員会スケジュールについて、期間が短いと考えられるが、議論を深めていくためにも再考いただきたい。

(4) 先進事例紹介等について

事務局が、資料4に基づき、熊本県内から全国道の駅の状況や道の駅のタイプ別、全国道の駅の事例紹介等について説明した。

(主な意見)

○4つのタイプによる立地と規模との関係性はあるか

【事務局】

●あまり相関関係はないと考えているが、駐車場の台数というのは、売上や来客に重要。道の駅をつくる時に、駐車場の重要性をあまり考えずにつくっている道の駅が多いが、少なくとも150台の駐車場は確保したいと考えている。トイレの数を増やさないなど、建設時において負荷がかかることは避けたい。

○ウェルネス拠点、健康というキーワードの中にも色々なものがある。荒尾の競馬場跡地に行くとおいしいものが食べられ、気持ちもリフレッシュできる。そのような形からウェルネスという言葉が他の道の駅との差別化にも繋がってくる。

○荒尾の地域資源として、土地の記憶というものもある。競馬場跡地を活用した馬事文化のレジャーゾーンの計画があり、一つ記憶が継承されていくわけである。温泉の話もあったが、潮湯という文化もあり、それもとて健康的な話しであると思っている。道の駅に取り入れるのか、その他のエリアで取り入れるのかは分からないが、そういった意味での地域資源についても大事にしていきたい。

7.その他

米田農林水産課長が、次回の委員会開催について、平成31年1月15日の週に開催することを報告した。

8.閉会

米田農林水産課長が、閉会を宣言した。